「第60回プログラム:大会要旨集録より抜粋]

日本教育経営学会 第 60 回大会要旨集録 【合冊版】

会場 オンライン開催(千葉大学) 期間 2020年12月19日(土)~20日(日)



日本教育経営学会 第 60 回大会実行委員会

主催: 日本教育経営学会

後援: 千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・千葉大学教育学部

ごあいさつ

日本教育経営学会第 60 回大会実行委員会 委員長 天笠 茂(千葉大学)

第60回日本教育経営学会全国大会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。本大会の準備並びに開催に関わられた多くの関係者、ならびに大会に参集いただきます会員の皆様に心より感謝申し上げます。

千葉大学では、第49回の大会(2009年)をお引き受けし、このたび60回という記念すべき大会を開催できることは、誠に意義深く喜びに堪えず、皆様をお招きすべくここまで準備を積み重ねてまいりました。

しかし、新型コロナウイルス感染の拡大にともない、すでにご案内の通り、当初予定しておりました5月末の開催については延期の決定のもと、事態の好転を待つ状況にあります。

そのような困難な状況ではありますが、ここに要旨集録をお届けいたします。若手研究者のための研究フォーラム、ラウンドテーブル、課題研究、実践研究フォーラム、自由研究発表、シンポジウムなどに関わる要旨であり、それらはいずれもが教育経営研究の発展に寄与するものであります。今後、この要旨集録は、日本教育経営学会の大会の長い歴史を断つことなく次に繋いだものとして、位置づけられていくことになると考えております。

会員の皆様におかれましては、千葉大学のキャンパスにおいて、この要旨集録を手に 一同に会する日が訪れますことを願い、挨拶といたします。

2020年5月29日

第60回大会要旨集録目次

大会日程	3
大会参加について(ご案内)※学会 Web サイト等でご案内	
自由研究発表要領	5
1日目	
	6
	7
	16
自由研究発表 3	27
シンポジウム	36
若手研究者のための研究フォーラム	45
ラウンドテーブル	46
オンライン懇親会	47
2 日 目	
自由研究発表 4	48
自由研究発表 5	59
	70
課題研究	81
	88

大会日程

1日目

8:45~9:00 会長挨拶

9:25~12:00 自由研究発表 1

自由研究発表 2

自由研究発表3

12:00~13:00 昼食

13:30~16:30 シンポジウム

16:45~17:45 若手研究者のための研究フォーラム

16:45~17:45 ラウンドテーブル 18:00~20:00 オンライン懇親会

2 日目

9:25~12:00 自由研究発表 4

自由研究発表 5 自由研究発表 6

12:00~13:00 昼食

13:00~16:00 課題研究

13:00~16:00 実践研究フォーラム

シンポジウム打ち合わせ ※打ち合わせ会場は別途お知らせ致します。

課題研究打ち合わせ ※打ち合わせ会場は別途お知らせ致します。

実践研究フォーラム打ち合わせ ※打ち合わせ会場は別途お知らせ致します。

自由研究発表要領

1. 発表時間

自由研究発表の時間は、以下の通りです。

- (1) 発表者が1名の場合:発表時間20分+質疑5分(計25分)
- (2) 発表者が複数の場合: 発表時間 40 分+質疑 10 分(計 50 分)
- (3) 共同討議の時間は25分です。
 - ※ 共同研究の場合にはプログラムのお名前に〇印を付した方が口頭発表者になります。
 - ※ 進行にあたって、司会の先生方には事前に「司会者マニュアル (http://jasea.jp/wp-content/uploads/2020/12/manual_2.pdf)」をご確認下さいますようお願い申し上げます。

2. 発表機材

今大会は Zoom での開催となります。

自由研究発表を予定している方は、事前に「発表者マニュアル (http://jasea.jp/wp-content/uploads/2020/12/manual/ 3.pdf)」をご確認頂き、指定された方法での発表をお願い致します。

3. 発表資料

発表資料を配布予定の方は、各発表の開始時にチャット欄を通じての配布をお願い致します。 また、事前に「発表者マニュアル (http://jasea.jp/wp-content/uploads/2020/12/manual_3.pdf)」をご確認頂き、指定されたタイミング・方法での配布をお願い致します。

4. 発表の取り止め等、その他

万一、お申込いただいた発表を取り止める場合は、必ず事前に大会実行委員会の下記へルプデスクまでご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。

なお、発表者は、指定発表開始時間にかかわらず、分科会開始時刻の 15 分前までにご入室ください。確認、質問事項がありましたら、下記へルプデスクまでお問い合わせください。

ヘルプデスク(発表の取り止め/技術的なお問合せ)

- ・メール: jasea2020chiba@gmail.com
- ・電話:0242-23-7027(会津大学短期大学部・櫻井研究室)

1日目 8:45~9:00

会長ごあいさつ

日本教育経営学会会長佐古秀一(鳴門教育大学)

自由研究発表1

司会: 武井 敦史(静岡大学)、 大竹 晋吾(福岡教育大学)

10:15~10:20	司会挨拶
10:20~10:45	学校改善の効果に関する研究
	村上 正昭 (放送大学大学院生)
10:45~11:35	情報共有による小学校の教職員の関係性向上に関する研究
	一対話型組織開発の視点を踏まえて一
	○小澤 浩太郎(大田原市立西原小学校)
	○小野瀬 善行(宇都宮大学)
11:35~12:00	共同討議

・当日発表なし

専門性に基づく「チームとしての学校」体制構築のための一方策

一教員と学校事務職員の連携・協働の礎となる「リソース・マネージャー」の育成—
永島 誠(埼玉県立春日部東高等学校)

・当日発表なし

いじめ問題を事例にした多義性のマネジメント論に基づく学校の危機管理に関する考察 田中 直哉 (石川県立小松特別支援学校・広島大学大学院生)

自由研究発表 2

司会: 南部 初世(名古屋大学)、 藤村 祐子(滋賀大学)

9:50~9:55	司会挨拶
9:55~10:45	校長のリーダーシップ発揮を促進する制度的・組織的条件の解明と日
	本の改革デザイン (2)
	―校長のリーダーシップ実践と規定要因―
	○諏訪 英広 (川崎医療福祉大学)
	○朝倉 雅史(早稲田大学)
	○髙野 貴大(独立行政法人教職員支援機構)
	安藤 知子(上越教育大学)
	織田 泰幸 (三重大学)
	加藤 崇英(茨城大学)
	川上 泰彦(兵庫教育大学)
	北神 正行 (国士舘大学)
	佐古 秀一 (鳴門教育大学)
	高谷 哲也 (鹿児島大学)
	浜田 博文 (筑波大学)
$10:45\sim11:35$	校長職の Journey に関する米・英・NZ・豪州の事例検討
	―-校長職任用以前に professional development がいかに図られている
	か―
	○髙妻 紳二郎(福岡大学)
	○植田みどり (国立教育政策研究所)
	○大野 裕己 (滋賀大学)
	○高橋 望(群馬大学)
	〇照屋 翔大(茨城大学)
	山下 晃一(神戸大学)
	浜田 博文 (筑波大学)
$11:35\sim 12:00$	共同討議

・当日発表なし

小・中学校における校長のリーダーシップ行動の特徴 -校長へのアンケート調査を踏まえて

西川 潔 (関西福祉科学大学)

自由研究発表3

司会: 石井 拓児(名古屋大学)、 武井 哲郎(立命館大学)

9:50~9:55	司会挨拶
$9:55\sim 10:20$	地方小都市における学校と地域の連携施策と住民による認識の実態
	―茨城県A市の事例分析—
	木下 豪(筑波大学大学院生)
10:20~10:45	災害経験の継承を目的とした教育課程の編成・実施に関する研究(2)
	- 東日本大震災後の「ふるさと創造学」構築プロセスの事例分析-
	吉田 尚史(独立行政法人教職員支援機構)
10:45~11:10	共同討議

・当日発表なし

S. ランソンの「学習するコミュニティ」論に関する一考察 —コミュニティ・スクールの理論的基盤の検討— 大空 秀文 (広島大学大学院生)

・当日発表なし

普通科高校におけるプロジェクト型インターンシップの有効性 ー計量テキスト分析を用いた自由記述回答の検討 中井 咲貴子(追手門学院大学)

1 日目 13:30~16:30

シンポジウム

ウイズコロナ、ポストコロナの教育経営

・課題設定の理由

ウイズコロナ、ポストコロナの時代に向けて「知」の在り方が問われている。パンデ ミックに「知」をもっていかに立ち向かうか。私ども一人一人に突き付けられた課題で ある。

2020年、新型コロナ感染症の拡大にともない、われわれは、これまでとは異なる 環境に自らを置き未知の体験に迫られることなった。その過程で認識を迫られることに なった一つにコロナウイルスの"毒性"がある。人々の生命に危機をもたらすのみなら ず、システムやマネジメントの劣化や機能不全を引き起こし、社会の分断や崩壊をもた らす"毒性"。これをどうとらえ、いかに向き合っていくかが問われた。

新型コロナ感染症は、教育をめぐるシステムやマネジメントに何をもたらしたのか。 また、これから何を引き起こそうとしているのか。改めて、これまでを振り返り、事の ありようを突き詰めていくことが取るべき立場ということになる。

千葉県の場合、事の始まりは次のようであった。2020年2月21日(金)千葉市 内の中学校教員の感染が判明。同夜、当該校の生徒などに向けて外出の自粛、土曜、及 び、連休の3日間をはさむ25 (火)・26 (水)の休校が伝えられた。千葉県の教育関 係者にとってコロナ感染が身近に迫ってきたことを実感させる一幕であった。

また、市川市においては、2月25日(火)県内で感染者のうち3人が市内スポーツ ジムの利用者であったことが、さらに、同施設を市内学校の教職員4名が利用していた ことが明らかとなり、市内の小中学校などすべてを2月28日から3月12日まで臨時 休業とするとして、27日(木)午前、村越祐民市長より公表された。同日夕刻、安倍首 相による「全国一律」の小・中・高の一斉休校の要請に先立つ動きであった。

一方、学校においては、休校の長期化にともない、学習保障をめぐって試行錯誤が繰 り広げられ、様々な教材・教具の開発が促されることになった。千葉大学教育学部附属 小学校もその一つであり、同校は ICT の利用に活路を求めてオンラインによる授業と学 習を成り立たせる取り組みを進めた。

これら動きについて、研究の立場から、また、実践の立場から、何が読み取れ、何が 言えるのか。感染拡大防止と諸々の社会的活動の両立が問われるなかにあって、これか らの教育に関わるシステムやマネジメントはどうあるのか。ウイズコロナ、ポストコロ ナの時代における教育経営をめぐり、その在り方を探りビジョンを描いてみたい。

<シンポジスト>(敬称略)

<司会>

田中 庸惠(千葉県市川市教育長)

天笠 茂 (千葉大学)

大木 圭 (千葉大学教育学部附属小学校副校長) 元兼 正浩 (九州大学大学院)

佐藤 博志(筑波大学)

水本 徳明 (同志社女子大学)

1 日目 16:45~17:45

若手研究者のための研究フォーラム 若手研究者が考える教育経営学への期待と問い

一教育経営学の知的蓄積をどう継承し、いかに刷新していくかー

【趣旨説明】

若手研究者のための研究フォーラム(前身「若手研究者のためのラウンドテーブル」)は、これまで、近年の本学会や他学会の動向を視野に入れつつ、若手研究者を取り巻く研究環境に関する検討や、若手から見た教育経営学における新たな研究課題および方法の探索などを重ねてきた。今期は、こうした蓄積を踏まえ、また、その発展を期して、若手研究者が教育経営学の知的蓄積をどう継承し、いかに刷新していくかをテーマに、探究を進めていきたい。今後2年間の大会時には、次の2点を軸に議論していく。

第一に、従来の知的蓄積といかに対話・格闘する/してきたかを題材に、教育経営学の課題と展望について検討することである。若手研究者のなかで教育経営学を語るための「共通言語」が乏しくなりつつあること等の課題を念頭に、知的蓄積との接続・刷新に向けた論点や課題の抽出・共有を目指したい。

第二に、若手研究者のなかの〈教育経営学〉像、すなわち自身の関わり方をも含めた 教育経営学への意識の持ち方について意見交換することである。学会において若手研究 者が集うことの意味・意義を踏まえ、教育経営学の課題や魅力について再発見する場と していきたい。

以上を通じて、若手研究者から教育経営学への期待と問いを発信し、学会の未来を見据えながら、先行世代との対話につなげていくことを目指す。

今年度は2名の若手研究者の話題提供を予定している。山本からは教育経営学において認識論(ものの見方・考え方)を問うことの意義や客観主義的な認識論を乗り越えていくための方向性について、田中会員からは教育経営学が「何ができるのか」という実践論だけでなく「そもそも、何と闘ってきたか」について、それぞれ報告する。話題提供後はフロアを交えて意見交換を行う。

なお、今期は若手ネットワーク担当の末松裕基(東京学芸大学)に加えて、世話人を 榎景子(長崎大学)と山本遼(大分大学)が担当することとなった。

【話題提供者】

1. 教育経営学における認識論に関する議論の展開と今後の方向性

山本遼 (大分大学)

2. 教育経営学の「知の蓄積」と「知の継承」への一検討 -これまでの教育経営学「知」の分類認識と若手研究者から見た課題と発展-

田中真秀 (大阪教育大学)

【司会】榎景子(長崎大学)、末松裕基(東京学芸大学)

(企画・文責: 榎景子、山本遼)

1 日目 16:45~17:45

ラウンドテーブル

「実践研究」の評価基準についての探究

2019 年度における「実践研究の方法論」について議論を踏まえ,2020 年度は「実践研究の評価基準」について検討する。検討材料として,本学会の近接分野の動向,米国をはじめとする海外動向についての資料・情報を提供する。

実践研究の「定義」「評価基準」問題は、戦中戦後創設の方法系学会(日本教育学会 1941,日本教育社会学会 1950,日本教育行政学会 1967,日本教育法学会 1970)では関心が薄い。ただし、日本教育心理学会 1952では、原著に「実践研究」のカテゴリーを置いている。日本教育経営学会 1958 も、「教育経営の実践事例」を設定し、「特色ある教育経営の実践事例を紹介・分析する論文を掲載することを目的」とすることが投稿規定に明記されている。

その後,1990年頃から対象系学会(日本教育工学会1984,日本カリキュラム学会1990,日本教育制度学会1993,日本教育政策学会1993,日本生徒指導学会2000,学校心理学会2003)の新設がはじまる。大学数・大学生数の増加,教育学研究科設置ブーム(愛媛大学は1993年)による研究者人口の増加と研究活動・業績蓄積の機会の需要が背景にあると考えられる。各学会紀要には、日本教育工学会(教育実践研究論文・資料・ショートレター)、日本カリキュラム学会(実践研究論文)、日本特別活動学会(実践ノート)、日本生徒指導学会(実践研究報告)、日本学校心理学会(実践研究・実践報告・ショートレポート)の投稿カテゴリーが用意されている。

さらに、2010年以降に対象系新興学会(日本教育事務学会 2013、スクールコンプライアンス学会 2013、日本学校改善学会 2018、日本学級経営学会 2019)が創設されている。これらの学会の特徴は、実践者による「実践研究」が主流となっている点である。教職大学院の設置・拡充を受け、大学教員の質の転換が求められる時代の現象であろう。これらの学会は、実践研究の定義と評価論に真正面から挑戦している。

それでは、海外はどのようになっているのであろうか。米国において Educational Administration に近接するジャーナル(American Educational Research Journal, Educational Administration Quarterly, Journal of School Leadership, School Effectiveness and School Improvement 等)を見ても、学術研究と実践研究のような区分は見当たらない。いずれの研究論文も、AERA 投稿要件である目的、理論フレーム、方法、データリソース・エビデンス・資料、分析結果と考察、研究の科学的・学術的意義がフォーマットであり、評価基準となっている。

実践研究の定義・評価基準問題の検討において有効な手がかりとなるのは、これらの海外ジャーナルではなく、大学院における Ed. D 評価基準であると我々は考えている。 Ed. D 評価基準に関する情報を参加者で検討することにより、主題についての議論を深めたい。

話題提供者:

露口 健司 (愛媛大学) 倉本 哲男 (横浜国立大学)

1日目 18:00~20:00

オンライン懇親会

・Zoom でのオンライン懇親会を開催致します。詳しくは、「参加者マニュアル (http://jasea.jp/wp-content/uploads/2020/12/manual 1.pdf)」をご確認下さい。

自由研究発表 4

司会: 元兼 正浩 (九州大学)、 柴田 聡史 (琉球大学)

9:25~9:30	司会挨拶
9:30~10:20	教育経営と学校改善に関する国際比較研究
	一アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド—
	○佐藤 博志 (筑波大学)
	○植田みどり(国立教育政策研究所)
	〇末冨 芳 (日本大学)
	○高橋 望(群馬大学)
	○照屋 翔大(茨城大学)
	〇西野 倫世(大阪産業大学)
	貞広 斎子 (千葉大学)
10:20~10:45	韓国における校長公募制の展開と実態に関する研究
	張 信愛(関東学園大学)
10:45~11:10	授業研究とプロフェッショナル・キャピタルの関連
	ーカザフスタン調査を基に一
	千々布 敏弥 (国立教育政策研究所)
11:10~11:35	ドイツにおける民主主義教育の現状と課題
	柳澤 良明(香川大学)
$11:35\sim 12:00$	共同討議

自由研究発表5

司会: 勝野 正章 (東京大学)、 畑中 大路 (長崎大学)

9:25~9:30	司会挨拶
9:30~10:20	スクールリーダー教育者の力量形成に関する考察
	○曽余田 浩史(広島大学)
	○金川 舞貴子(岡山大学)
	○長沼 正義(広島大学院生)
	大空 秀文(広島大学院生)
	○佐々木 優 (広島大学院生)
10:20~10:45	学校づくりにおける「動的相対主義」のデザイン論的意義の検討
	○曽余田 順子
	曽余田 浩史 (広島大学)
11:10~11:35	持続的な研究部のリーダーシップ実践
	有井 優太(東京大学大学院生・日本学術振興会特別研究員)
$11:35\sim 12:00$	共同討議

・当日発表なし

効果的なファシリテートチームの運営に関する学校組織開発理論の再検討

岩永 裕次(北九州市立鞘ヶ谷小学校・九州大学大学院修了生)

自由研究発表6

司会: 山下 晃一 (神戸大学)、 川上 泰彦 (兵庫教育大学)

9:50~9:55	司会挨拶
$9:55\sim 10:20$	教職大学院の学修と教育実践の間
	―教員の教育観の変容に着目して―
	菅原 至(上越教育大学)
$10:45\sim11:35$	ベテラン教員の資質向上
	~指標に基づいた,45 歳を受講対象とした研修プログラムの開発~
	○櫻井 良種(茨城県教育研修センター)
	○吾妻 俊昭(茨城県教育研修センター)
11:35~12:00	共同討議

・当日発表なし

教育実習における学びの成果 ルーブリックの中項目を活用して 山西 哲也 (淑徳大学)

・当日発表なし

人事異動が教師の成長・発達に与える影響 一新たな環境への適応プロセスに着目して一 小杉 進二 (九州大学大学院生)

2 日目 13:00~16:00

課題研究

「実践の学としての教育経営学研究の固有性を問う(2) ----教育経営学研究の科学としての質を高めるとはどういうことか

司会 山下 晃一(神戸大学) 末松 裕基(東京学芸大学)

報告者

畑中大路(長崎大学)「教育経営学における価値不可分性の視点から」 米沢崇(広島大学)「教育経営学研究によって産出された研究知の参照可能性」 波多江俊介(熊本学園大学)「教育経営学における再現可能性の問題」

【課題設定の趣旨】

今期の研究推進委員会では、①実践の学としての教育経営学の「固有性」を追究する ②教育経営を科学することの妥当性、政治性を見定め、その可能性を模索する③学問的 越境も躊躇わず、近接他領域との関係の中でその「外延」を見極めるという3本の柱を 設定した。初年次にあたる昨年度の名古屋大会では①に関わり、学校経営のリアリティ 把握をめぐって白熱した議論を展開した。

研究推進委員会の2年目/3年計画では、引き続き①実践の学としての教育経営学の「固有性」を追究することを中心課題としながらも、特に②に関わりサブタイトルに示した「教育経営学研究の科学としての質を高めるとはどういうことか」について議論を深める。学術性は実践性と表裏の関係にあり、実践性を高めるためにも教育経営学研究の学術性の確立は必要とされてきた。

ただ、「教育経営学研究の科学としての質」といった場合に、自然科学の装いを身に纏い何を「再現」したいのか、学問の継承・発展という視点で捉えた場合に学術的な「参照」は十分なされてきたのか、社会科学の一領域として「価値」中立はありうるのか、「科学」が有する政治性や自明性を疑い、「科学的」知を有した高みの観察者とはしない研究者のありかた、すなわち「当事者性」といった視点でも本課題研究では教育経営学研究の固有性を追究していくこととしたい。本テーマに関わって3名の委員より報告するが、あくまで本テーマで闊達に議論するための提案であり、フロアーとともに課題を深めたい。

(文責:元兼)

●研究推進委員会 (2018年~2021年)

委員長:元兼正浩(九州大学)副委員長:山下晃一(神戸大学) 委員:臼井智美(大阪教育大学)・末松裕基(東京学芸大学)・武井哲郎(立命館大学)・波多江俊介(熊本学園大学)・畑中大路(長崎大学)・米沢 崇(広島大学)

幹事長: 榎景子(長崎大学)事務局幹事: 原北祥悟(第一工業大学)・小林昇光(岡山理科大学)・鄭修娟(九州女子短期大学)・木村栞太(九州共立大学)

2 日目 13:00~16:00

実践研究フォーラム

教職大学院におけるスクールリーダー教育に関する構成原理の検討と プログラム開発 2

―プログラム作成・改定の「拠り所・参照」となり得るものとは?―

・課題設定の趣旨

第5期実践推進委員会(以下「本委員会」)は、教職大学院がスクールリーダー(以下「SL」)教育の中心的役割を担うことが期待されている状況において、「教職大学院における SL 教育に関する構成原理の検討とプログラム開発」をミッションとして活動を始めた。まず、1年目のフォーラムでは、わが国の大学院、特に教職大学院における SL 教育の展開過程(研究と実践)のレビュー、全国教職大学院における SL 教育の提供実態、国内外の SL 教育の具体事例に基づき、本委員会が取り組むべき方向性とその内容等について協議した。

その後、本委員会では議論を重ね、「ワンベストシステムではなく、今後、新たに教職大学院を立ち上げる、あるいは現在のプログラムをリニューアルする際の『拠り所・参照』となり得るもの」を提案するために、2年後のゴールを「各教職大学院のSLプログラム改定にあたっての『SLスタンダード』の開発」と設定した。そして、2年目の具体的な活動として、3チームを編成し、各教職大学院のSLプログラムのデザイン・原理の実態(報告1)、教職大学院と教育委員会のSL教育の実態(報告2)、他専門職大学院、特にMBAのリーダー教育の実態(報告3)に関する調査活動を進めてきた。

そこで、2年目のフォーラムでは、3つの調査結果の報告に基づき、前記した「SLスタンダード」のイメージや内容等について、参加者と幅広くディスカッションし、3年目(最終年)の主活動である「SLスタンダード」の開発に資する示唆を得たい。なおこの時、「本学会として、教育経営学の研究成果を踏まえた SL 教育プログラムの構成原理とその内容は何か?」という軸足に基づくことを意識したフォーラムとしたい。報告者、司会者は以下の通りである。

報告1「教職大学院におけるスクールリーダー教育の意義と課題」

高谷 哲也 (鹿児島大学)・山本 遼 (大分大学)

報告2「教職大学院と教育委員会のスクールリーダー育成の特質」

大林 正史(鳴門教育大学)

報告3「他専門職大学院(MBA)におけるリーダー教育の実態調査」

田中 真秀(大阪教育大学)

司会者 浅野 良一(兵庫教育大学) 安藤 知子(上越教育大学)

協賛広告一覧 (掲載順)

ジアース教育新社 様

晃洋書房 様

学事出版 様

風間書房 様



インクルーシブ教育システムの確立をめざして 国立特別支援教育総合研究所が総力編集!!

特別支援教育の基礎・基本2020

- ■新学習指導要領に完全対応!!
- ■最新の特別支援教育の理論と、障害種別ごとに教育課程の編成、指導法等を詳説。
- ■特別支援教育の基礎・基本がこの1冊でわかります。

平成29・30年改訂の学習指導要領等を踏まえ、2015年発行の『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』を全編ブラッシュアップ。学習指導要領改訂の基本方針や要点などをはじめ、特別支援教育に関する最新の基礎理論と、障害種別の基本知識、教育課程、指導法等がこの一冊でわかる、特別支援教育関係者の必携書。

■著作 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 ■A 4 判/348頁 ■定価 本体2,700円+税 ■ISBN 978-4-86371-548-6



合理的配慮ハンドブック

~障害のある学生を支援する教職員のために~

独立行政法人日本学生支援機構 編著 ISBN 978-4-86371-492-2 B5判/252頁 本体2,300円+税

障害のある学生の周りでよく聞く「合理的配慮」ってなんだろう? 合理的配慮を理解するための解説と関連法令を1冊にまとめた唯一無二の必携ハンドブック。障害のある学生を支援する教職員はもとより、大学など高等教育機関への進学を考える方の保護者、進路指導の教員、これから学生として学ぶ方などに役立つ情報をコンパクトに提供しています。



よくわかる!大学における障害学生支援

こんなときどうする?

竹田 一則 編著 ISBN 978-4-86371-469-4 B 5 判 / 280頁 本体2.800円+税

本書は、早くから障害学生支援に関わり、多くの知見や経験を有し、それぞれの分野の専門家による "障害学生支援に関する実践書"を目指して企画された。障害学生支援に関わる全ての関係者が理解を 深め、これまで支援の経験の少ない大学等においても、支援の体制の構築や実践の参考となるよう、具 体的な事例も多く掲載している。 電子書籍は「電子書籍版の販売サイト」からも購入できます。



介護等体験ガイドブック **新フィリア**

全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著 ISBN 978-4-86371-522-6 B 5 判/カラー176頁 本体1,400円+税

小学校及び中学校の教員をめざす方が必ず行う「介護等体験」。その必携書として多くの学生をサポートしてきた『フィリア』が判型を大きくし、イラストや写真を多く盛り込んで、すっきりと読みやすいレイアウトになり新しくなりました。特別支援教育について深く理解し、豊かでかけがえのない体験を得るために、ぜひご活用ください。

高等部の学習指導要領解説が5分冊になって登場!■ 特別支援学校学習指導要領解説(高等部)

平成31年2月 文部科学省

- ●特別支援学校学習指導要領解説総則等編(高等部) A 4 判 352ページ ISBN978-4-86371-525-7 定価:本体1,500円+税
- ●特別支援学校学習指導要領解説視覚障害者専門教科編(高等部) A 4判 380ページ ISBN978-4-86371-526-4 定価:本体2,300円+税
- 特別支援学校学習指導要領解説聴覚障害者専門教科編(高等部)A 4判 332ページ ISBN978-4-86371-527-1 定価: 本体2,200円+税
- 特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編(上)(高等部) A 4判 432ページ ISBN978-4-86371-528-8 定価: 本体1,700円+税
- ●特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編(下)(高等部) A 4判 472ページ ISBN978-4-86371-529-5 定価:本体1,800円+税



〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル TEL 03-5282-7183/FAX 03-5282-7892

 $\hbox{E-mail info@kyoikushinsha, co. jp} \qquad \hbox{URL https://www.kyoikushinsha, co. jp/}$



文化、コミュニティ、そして豊非体育会系スポーツが生み出す そして豊かな時間

木 武井 哲郎

A5上製186頁

2 6 0

0

円

地域・学校 行政の挑戦

♠ A5上製184頁

キャリア形成

よくわかる酸職シリーズ

0

円

5500円

※表示価格は税別

女性教員のキャリア形成

女性学校管理職はどうすれば増えるのか?

吉近 永藤

潤敦

宮豊 脇田 昇祐 昇輔 編著 A5並製228頁 2 8 0



講話を通して学校経営力を高める。

岩崎

久志 著

教育不況 売り からの 脱出

教育不況からの脱出

日本型クォーター制という選択

ロバート・D・エルドリッヂ

大学院修了者への聞き取りを通して

の現象学



1800円

か

ドイツの学校には なぜ 『部題』が登れのか

高校教育の

現在

一がわ

かる

图图图图 __10

withコロナ時代の

対象:中学·高校教師、管理職

対象:高校管理職、教育関係者·研究者

京都市右京区西院北矢掛町七番地 TEL 075(312)0788 / FAX 075(312)7447 http://www.koyoshobo.co.jp

四六並製194頁

中学校・高等学校の授業研究と

対象:小·中学校管理職

PRINCIPAL

■毎月13日発売

■定価 968円 (税込)・

教育課程の編成・実施のために。

中等教育資料 10

(日本) 合理的配慮を競まえた通常の学級で学み 検索のある生物の学問報報

■毎月28日発売 ■B5判

年間誌代 8,976円 (税込)

■定価 748円 (税込)

介護等体験

庄司 和史 著一対象:教職課程学生

基本的事柄をまとめたテキスト。学生目線で編集し 教員免許取得のために必須の介護等体験について

より分かりやすく、より取り組みやすい内容で構成。

■A5判·128頁

介護等体験 安心 ハンドブック ■定価1,650円(税込) **I**ISBN 978-4-7619-2477-5

教育実習

よくわかる 骸職 シリーズ 教育実習 安心 ハンドブック 小山 茂喜 編著 対象:教職課程学生

事柄をまとめたハンドブック。 の学生が、安心して教育実習に臨むための基礎的. 教育実習指導をいかに効果的に行うか。教職課程

な ■A5判·176頁 ■定価1,980円(税込) \blacksquare ISBN 978-4-7619-2476-8

G学事出版

■毎月13日発売 ■B5判

年間誌代 14,905円 (税込)

■定価 1,045円 (税込)



TEL03-3253-4626 FAX **55**0120-655-514

年間誌代 11,616円 (税込)

http://www.gakuji.co.jp

教育学関係学術図書のご案内

価格は税別。

占領期日本院学校評価政策院研究 11500円

福嶋 尚子著

占領期の日本で展開されてきた新制高等学校の学校評価 政策を素材とし、学校の水準保障を目的とする政策構想と 政策過程について解明する。

米国公立学校教員評価制度等關研究

藤村 祐子著 7000円

本書は、アメリカの教員評価制度について、歴史的な 変遷を踏まえた上で形成的機能に注目し,成立・展開過程, 実施状況を解明した好著。

教育における指導ラウンド チャレンジー

R.エルモア・ L.テイテル他著 八尾坂修監訳

「指導ラウンドネットワーク」と呼ばれる新たな学びの方法を 開発。「質の高い効果的な指導」についての共通認識を育み, 組織的能力を高めるプロセスを紹介。

育 学一産業界と教育界の架け橋一

三好 信浩著

2500円

著者長年の研究成果から,産業界と教育界との協力に 不可欠な新しい学問領域「産業教育学」を確立。刻々と 変化していく産業社会に対応するための人間育成論を展開。

ジェームズ・カマーの学校開発プログラム研究

藤岡 恭子著

持続的な実践が展開されているジェームズ・カマーの 「学校開発プログラム」の歴史的探究を通して、「学校開発」に おける価値概念、構造および特質を明らかにする。

教育経営院養責任·統制構造院研究 三浦 智子著 7500円

我が国における教育経営の統制と責任の構造について 実態を解明。学校の「アカウンタビリティ」の保障を 図る上で、その構造が抱える課題について検討を試みる。

高等学校から職業社会への移行プログラム場研究

岡部

生徒にとって意味ある高校教育とは何か? 本書は,カナダの 事例から、普通教育と職業教育の二重性の実現をめざす 教育政策と内容を明らかにし、可能性を検討した。

コミュニティ・スクールの全貌

佐藤晴雄編著

コミュニティ・スクールの活動実態や校長の意識を明らかにした 最新の調査を取り上げ,その有効性と課題を考察。今後の政策・ 実践や研究に資するデータを示した。

社会教育主事に求められる役割

歴史的背景から社会教育主事制度の変遷を辿り、所属組織や キャリアが資質・能力獲得に与える影響を実証的に研究。 今日の社会教育主事に期待される姿を論ずる。

教員自主研修法制の展開と改革への展望

久保富三夫著

11500円

前著『戦後日本教員研修制度成立過程の研究』を基盤に, 戦後自主研修法制の展開を歴史的・原理的・総合的に考察。 「学び続ける教員像」実現のための著者渾身の提言。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34 TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

間 房 (URL) https://www.kazamashobo.co.jp メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

日本教育経営学会第60回大会要旨集録【合冊版】

発行日: 2020 年 12 月 19 日

編集:日本教育経営学会第60回大会実行委員会 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学教育学部教育行財政研究室内

日本教育経営学会第 60 回大会実行委員会事務局

委員長: 天笠茂 (千葉大学)事務局長: 貞広斎子 (千葉大学)委員 (50 音順): 阿内春生 (福島大学)

:梅澤 希恵(国立教育政策研究所)

: 小野まどか(植草学園大学)

: 櫻井 直輝(会津大学短期大学部)

: 島田 桂吾(静岡大学): 白川 優治(千葉大学)

: 鈴木 敬 (千葉市立西の谷小学校)

: 丹間 康仁(千葉大学)

後援:千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・千葉大学教育学部